



国民春闘共闘

2022年度 第15号
2022年3月9日

国民春闘共闘委員会
〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

ケア²²国民春闘
労働者の
大幅賃上げ
ACTION
Zenroren Shuntokiyoto

3.9 回答集中日直前 賃金上げろ！ケア労働者 全国オンライン大集会

国民春闘共闘・全労連は中央行動が行われた3月2日の夜、「賃金上げろ！ケア労働者全国オンライン大集会」を開催しました。全国各地から、看護・介護・保育・学童・福祉施設など、さまざまなケアの現場で働く仲間 400人以上がオンラインで参加しました。集会には、岡野八代立命館大学大学院教授から連帯のあいさつをいただき、6人の仲間が決意表明を語りました。

以下はそれぞれの発言です。

主催者あいさつ 黒澤幸一 国民春闘共闘事務局長

コロナの感染拡大が2年以上に渡り続く中、自らの生活、家族との時間にも大変な制限がかかる中、社会を支え、いのちを守るために奮闘されている全ての労働者、とりわけケア労働者に感謝をしています。



この20年間、OECD諸国の中で、日本だけが賃金下がっていると言われていたが、とりわけケア労働・教育・公務など、公共性の高いサービスを提供している労働者の賃金が一層下がっている。岸田政権は、私たちの声によって看護師4000円、介護士・保育士9000円の賃上げと言い出したが、職場に分断を持ち込む内容になっている上に、引き上げ額も全く足りていない。この春闘でケア労働者に4万円以上、時間給250

円以上の引き上げを実現しよう。「賃上げは条件が整ってから行う」ではなく「まず賃上げを決断させて、必要な手立てをとっていく」に方向転換をさせよう。

連帯あいさつ 岡野八代 同志社大学大学院教授

コロナ禍で明らかになったのは、医療や福祉を削減してきた政策を根本から見直すべきということだが、政府や多くの政治家は、みなさんの時間と労力をさらに搾取することで乗り切ろうとしている。しかしもう一方で、エッセンシャルワークという言葉があきらかにしているように、ケア労働はどのような社会状況になろうとも人が人間らしくあるために不可欠な営み。国内外でケア労働への注目が高まっているが、「生きさせろ」という抵抗、これまでの政治経済が軽視してきた価値観の大転換—「ケア革命」が求められているということ。「ケア労働者に大幅賃上げを」というスローガンには、賃上げだけでなく、人間の尊厳がかけられている。私たちの価値観や労働観を変え、政治を大きく変える運動になることを祈念しています。



つづいて、介護・保育・障がい施設・学童保育・地域・看護の現場から 6 人の方が、大幅賃上げ・増員に向けての思いを語っていただきました。

北海道医労連 井上晃さん

介護の現場は危機的状況が続いている。40 歳代が若手であり、職員の半数は非正規雇用、それも定年を過ぎた 60 歳以上の労働者で何とか踏ん張っているのが介護現場の実態。長引くコロナ対応で、利用者からも職員からも以前の様な明るい笑顔は失われつつある。



人材派遣会社から転職した介護の職場では、専門性が高く技術や知識に裏付けられた介護が行われており、それによって笑顔になる利用者様の存在がある。この人との繋がりや温かみを働きながら感じられる介護の仕事にやりがいを感じている。

誰でも 4 万円の賃上げが必要という声を共に上げていきましょう！そすれば、賃金の向上を図り退職者を引き止め、笑顔があふれる職場を取り戻し介護の仕事の担い手を増やせそう。

福祉保育労島根支部 永田かおりさん

130 人の子どもがいる保育園で、23 人の体制で現場を回している。第 6 波の中で、職員に濃厚接触者が出ており、職場が回らず、2 才児・3 才児を合同保育でみるなど蜜が避けられない状況。子どもを寝かしつけたあと、休憩までの 20 分でさまざまな事務仕事をしてきたが、今はアルコール消毒に使っているため、休憩時間も仕事をしている状況になっている。保育中にトイレにも行けず膀胱炎になってしまう職員も多い。23 年働いて基本給 230,100 円。辞めることが頭によぎることも多い。配置基準の増加と賃上げをもとめたい。



福祉保育労福岡地本 城山佐和子さん



障がいを持つ人たちの作業所に勤務して 27 年。サービス提供責任者をしている。福祉の仕事にはやりがいと誇りを感じている。最近、グループホーム作りに関わり、利用者が自分らしい生活の一步に触れられるなど喜びも多い。しかし、収入は、月 27 万ほど。息子が高校に入学したが、通学用自転車や制服や教科書代などで 50 万の出費があり、家計の厳しさを感じた。

福祉の仕事が若い人たちのあこがれの仕事にできるように大幅な賃上げを実現したい。

建交労所沢学童支部 岩崎沙知子さん

今回の特例事業で、私の学童保育所では 1 万円の賃上げといわれていて、初任給が 175,000 円から 185,000 円になる。学童保育指導員は、低賃金の人が多いので、1 万円の賃上げは正直大きいですが、しかし全国平均と比べてみると、満足とはいかないなど感じている。

学童保育は、コロナ禍でも開所を続けることが求められているが、施設も古く、子どもたちを静養させる場所がないところも多い。職員数も常勤が 2~3 人と少ないので感染者が出たらどうなるかという不安とプレッシャーの中ではたらいっている。保護者と子どもたちのためになんとかしようと



いう思いだけでは続けられないと感じている。

広島県労連 門田美穂さん

地域医療の要を担う在宅連携を担っている病院の総務課で、医療資材の確保などの仕事に従事している。この二年間個人防護具の確保に四苦八苦し、医療機関の厳しい状況を実感している。2月には、職員にもコロナ感染が広がった。復職後も後遺症への不安や感染したことへの後悔などをつぶやく同僚にかける言葉もなくただ背中を擦ることしかできないことに悔しさを感じる。労働に見合わない低賃金と長時間労働に若い人たちは数年でやめていってしまう。ケア労働者の処遇改善に世論が味方してくれているこの時期を逃さず賃上げを実現したい。



在宅連携を担っていますが、公的医療機関と違い

大阪府職労 山本桃子さん

就職して初めて病棟に配属されしばらくたったとき、患者さんが立て続けに亡くなっ



て、看護師に向いていなんじゃないかと悩んだことがあった。そんな時、先輩が「患者さんがなくなったのは、あなたのせいじゃない。あなたじゃなきゃだめと言ってくれる患者さんもいるじゃない」と声をかけてくれたことで、人はいつか亡くなるが、その時までどう生きるかに関われる看護師という仕事は、とても素晴らしい仕事と感じた。これまで多くの仲間を支えられて仕事を続けてきた。しかし一方で辞めていった仲間もたくさんいる。つい先日も若い看護師が、もう無理ですとって辞めていった。みんなが安心して働き続けられることで、質の高いケア・よりよい看護を提供できる。そのためにも看護師の処遇改善を願っている。

黒澤事務局長のまとめ

6人の方の発言に共通しているのは、「いい仕事をしたい、よりよいケアを実現したい」という思い、コロナ禍の中でその思いを実現することが本当に困難に直面している。そうした思いは、社会の多くの人たちの思いと一致していると思う。ケア労働者を支える構造を脆弱なものから盤石のものへと変えていくことが社会的に求められている。3月9日には、春闘の統一回答が出るが、私たちの運動で岸田政権の賃上げ政策を実現

させてきた。これを私たちの手元に届かせるためには、職場で交渉を広げ、賃上げに結びつけよう。そのためにも地域の仲間と結びついて運動を広げること、労働組合に入っていない同じ同業種の人たちに「労働組合に入ろう」と声掛けをしよう。LINEで「ケア労働者に大幅賃上げを」というオープンチャットを開設したので、ぜひ周りの同業の仲間にも知らせて広げよう。

ケア労働者の大幅賃上げを LINE オープンチャットは右下の QR コードから登録できます

